

第4章 「ジオパークの父」エダー氏の招聘

元ユネスコ地球科学部長のヴォルフガング・F・エダー氏を招聘し、各県のモデル地域において現地視察及び地元関係者との意見交換を実施した。

また、全体会として「四国圏のジオパークモデル地域調査報告会」を開催した。

エダー氏の調査スケジュールなど

月日	主な訪問先など	調査事業内容	参加者など
2.1 (日)	〔高知県〕 ・ 竜串、見残し（グラスポート利用） ・ 足摺海洋館 ・ 海のギャラリー	○午前：現地視察 （地元観光ガイド案内） ○午後：意見交換会 ・ エダー氏の現地視察の感想 ・ ジオパークの可能性について意見交換	・ 土佐清水市職員 ・ 地元観光ガイド ・ 地元観光業者ほか
2.2 (月)	〔愛媛県〕 ・ マイントピア別子周辺	○午前：現地視察 （地元観光ガイド案内） ○午後：意見交換会 ・ エダー氏の現地視察の感想 ・ ジオパークの可能性について意見交換	・ 検討委員会委員 ・ 新居浜市職員 ・ 観光協会 ・ 地元観光ガイド ・ 地元観光業者ほか
2.3 (火)	〔徳島県〕 ・ 祖谷・大歩危地域（川下り） ・ ラピス大歩危 ・ 平家屋敷民俗資料館など	○午前：現地視察 （徳島大学村田教授案内） ○午後：意見交換会 ・ 三好市の地質概要 ・ エダー氏の現地視察の感想 ・ ジオパークの可能性について意見交換	・ 検討委員会委員 ・ 三好市職員ほか ・ 地元観光業者
2.4 (水)	〔香川県〕 ・ 五色台少年自然センター自然科学館 ・ 坂出市（金山：サヌカイト）	○午前：現地視察 （香川大学長谷川教授案内） ○午後：意見交換会 ・ 坂出市の地質概要 ・ 讃岐ジオパーク構想提案 ・ エダー氏の現地視察の感想 ・ ジオパークの可能性について意見交換	・ 検討委員会委員 ・ 香川大学関係者ほか
2.6 (金)	〔四国圏のジオパークモデル地域調査報告会〕	・ 仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会の現状報告 ・ 糸魚川ジオパークの活動報告 ・ エダー氏の四国圏のモデル地域視察の感想	・ 検討委員会委員 ・ 四国広域協議会委員 ・ その他行政関係者 ・ 民間団体ほか 約 50 名参加



視察状況（マイントピア別子）



調査報告会の様子

エダー氏からみた四国

2008年1月と2009年2月に行った四国4県をめぐる、自然・地質・文化・そして産業の面から見た観光地の調査を終えて、四国全体あるいはいくつかの選ばれたところは、ユネスコの世界ジオパークネットワークに加盟するジオパークとして推薦される高い可能性がある、と私は判断しました。

訪問した海岸地域・さんご礁・山岳・中央構造線帯・洞窟・溪谷などのような、地質学的・地形学的・構造地質学的・生物学的にすぐれたところ、産業遺産や文化遺産、博物館、研究所、あるいは土産品までもが、すべて魅力的で国際的水準に達しています。素晴らしい風景、博物館、文化的に、また宗教的に重要な歴史遺産は興味深いジオパークになる可能性を約束されています。四国のジオパークは国内でも国際的にも高く認められつつあり、レクリエーションの地として、さらに地球・自然・文化の知識を増す地として、アジア太平洋地域や遠い海外の人々の強い関心をよんでいます。

公有地・私有地にわたる地域の調査をもとに、四国ジオパークは次のような「ジオパークの傘の下」（ジオパークのコンセプトによる地域活動の包括を意味する）に作られると考えられます。めざすべき方向は次のとおりです。

- ・ 四国の自然・文化・地球遺産を現在と将来の世代に残していく
- ・ 若い人々や一般の人々に、地球科学とその環境・文化・産業問題との関係を教育していく
- ・ 持続可能なツーリズム（観光）を通して、社会に経済的な利益をもたらす新しい要素として発展させていく

2009年2月6日高知にて

Dr. ヴォルフガング・F・エダー

ユネスコの世界ジオパーク委員会名誉委員

元ユネスコ地球科学部長

第5章 先進事例調査

一番新しく G G N に認定されたジオパークであるオーストラリアの KANAWINKA GEOPARK（カナウィンカジオパーク）を選定して、現地調査を行った。

1 視察概要

- ・日時：2008 年 12 月 17 日（水）～12 月 23 日（火）
- ・調査地：オーストラリア KANAWINKA GEOPARK（2008 年 6 月に G G N に認定）
Mount Gambier 市役所（ジオパーク合意覚書に署名した市の 1 つ）
- ・現地案内人：KANAWINKA GEOPARK Director Joane McKnight
- ・調査実施者：検討委員会委員長 藤目節夫



出典：カナウィンカジオパークホームページ

2 KANAWINKA GEOPARK（カナウィンカジオパーク）について

（１）概要と現状

カナウィンカジオパークは 26,910km² であり、四国の約 1.4 倍の広さを持つ。

ジオパーク内は地域を地質の特色ごとに 4 つに区分（クレター・石灰石、砂漠・洞窟、火砕丘・滝、湖・湿地）されている。

オーストラリアには国内ジオパークネットワークがなく、世界ジオパークとして認定を受けたにも関わらず、国内でのカナウィンカジオパークの認知度は低いようであった。



訪問した Mount Gambier 市にはジオサイトが数か所あり、案内所兼カフェなどが見られるサイトもあるが、建物はなく無人で看板だけのサイトや、周囲を網で囲まれたサイトもあった。

（２）設立のきっかけ

2004 年に世界ジオパークの募集が始まり、ドイツのジオパークコーディネーターから「オーストラリアでジオパークを創設しないか」と連絡が来たことをきっかけに設立の準備を開始した。

（３）設立の目的

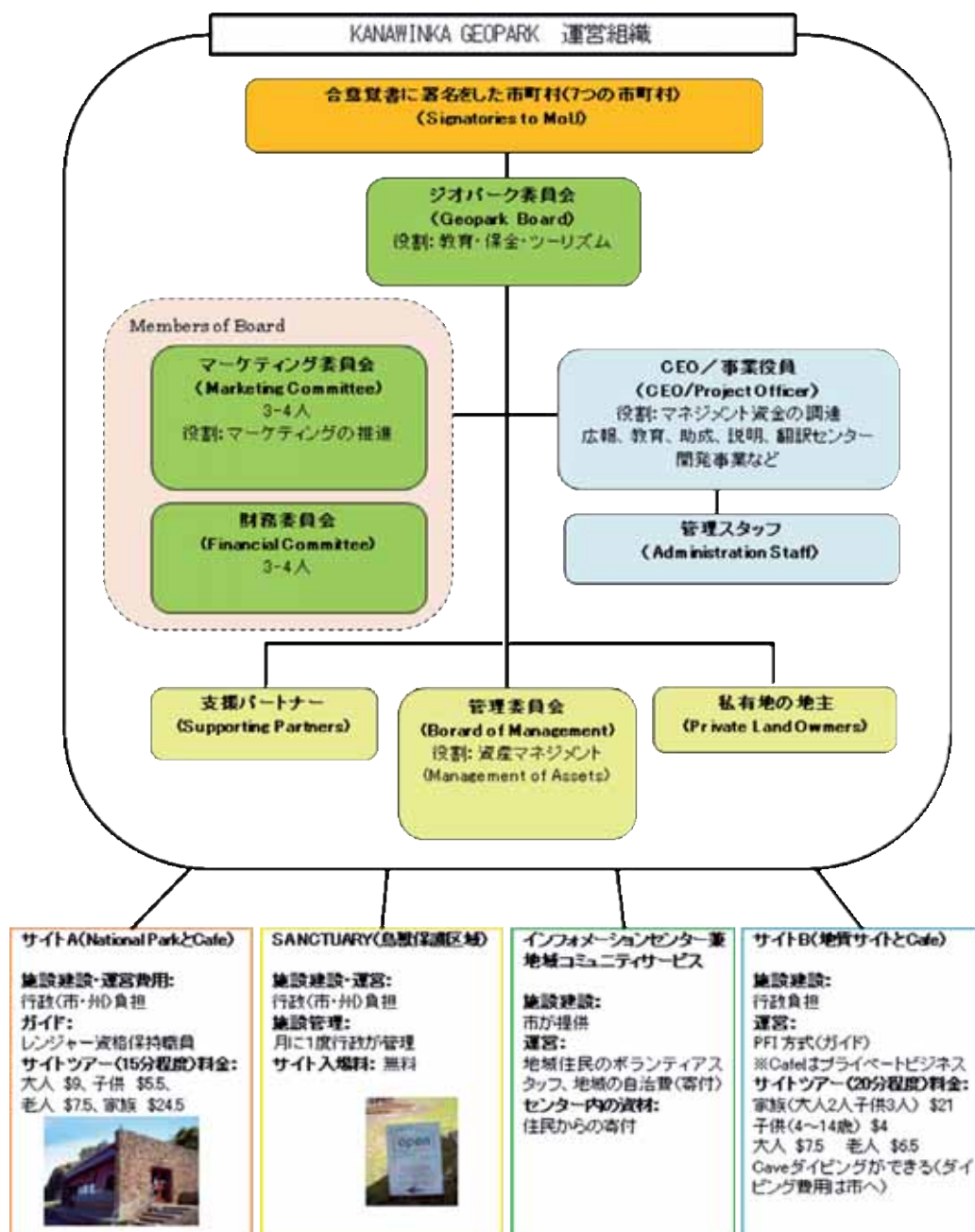
広大なジオパーク地域内には、学生や協議会、その他の集団にジオパークの要素を伝えることのできる場所が数多くあるため、地域住民が地域を知ること、ツーリズムの促進などによる経済発展を目的としている。

また、ジオパークやその認定は地域アイデンティティの確立と地域住民による、地域自治の促進の可能性を持っている。

（４）運営組織

運営組織は、観光客の増加・動植物の保護、雇用の創出、ジオツーリズムの振興とジオパークに関わる広報・普及促進活動（経済・芸術・文化）を目的として設立され、以下のような組織体制となっている。これを母体に持続的な経営ができるように展開中である。

カナウィンカジオパークの構成図



出典：カナウィンカジオパークの申請書とヒアリングをもとに作成

行政組織はCEOの中に、委員会と芸術・基盤整備・教育・ツーリズム・ジオ資源の保全の5つの会を持つ。委員は、ナショナルトラストの代表者や、大学の教授や、水道局職員や、教育関係者、地域住民など、みな違った技術を持つ人たちである。

（５）運営資金

7 つの市町村からの補助金とロータリークラブなどからの寄附金が主であり、今後サイトなどから数%のマージンを得る予定である。

（６）ジオパーク認定後の観光客数と経済的波及効果

ジオパークに認定されて間もないことから観光客数の把握や経済的波及効果の調査はできていない。近年、不況で観光客は減少しているが、ジオパークのホームページの閲覧者数や問い合わせメールの数は増えており、地域内の旅行者を増やすことは可能だと考えている。また、食やワインと宿泊のパッケージや、修学旅行向けのパッケージ商品の可能性を検討している。

（７）交通について

カナウインカジオパークには空港が2か所にあり、ワーナンプールとメルボルン間には汽車が通っている（料金は約50AUSドル）。メルボルンとアデレードからはバスも運行している。域内のサイト間を移動する手段としては、レンタカーでの移動が現実的である。

（８）大学、会社、行政との協力体制

地方行政やツーリズムの委員会にとって協力体制は必要不可欠であり、今後は4つの大学との連携を考えている（Melbourne Univ., Adelaide Univ., Univ. SA, Deakin and Ballarat Univ.）。ジオパークの活動にロータリークラブや企業が関わっている。

（９）地域内の案内看板

道路脇の駐車スペースに看板を設置しているが言語表記は英語のみである。アジア向けの表記（中国語、韓国語など）はないが、これは裏返せば英語のみでG G Nの認証を得られることを意味している。



案内看板



ジオサイト内の風景



木製案内看板



カナウインカジオパーク CEO ジョアンさん(左)
Mount Gambier 市副市長(中)と記念撮影



地元で作られたワイン

先進事例調査を終えて（藤目検討委員会委員長のコメント）

- 7市町村から構成されているジオパークであるが、一番感じたことは、各市町村が自地域のアイデンティティを非常に重視していることであり、その市町村が連携するためのキーワードが「ジオパーク」である。
- ガイド収入のみでは生計を維持することが困難なため、ガイドに地質サイトや博物館の管理を委託し、ビジネスとしてカフェを経営する権利を与え、その収入によって生計維持できるようにしているケースがあり、四国においても導入できる手法ではないかと考える。

3 先進地ジオパークの比較

	オーストラリア	ヨーロッパ	中国	国内他地域
入場料の有無	一部有り	なし	有り	なし
組織の運営主体	ボランティア NGO +行政職員	民間：NPO、NGO	国家：SPC（※1）	自治体
主な資金形態	市町村からの補助金 ロータリークラブからの寄付金	自治体の補助金	料金収入 民間資金PFI（※2）	自治体の補助金
ガイド制度	サイトの運営メンバー	ボランティア制が主	登録制	ボランティア制 （資格制検討）
主なガイド構成員	国・州立のサイトはレンジャーが配置 サイト維持管理（PFI方式）でガイド業務をしている箇所もあり	ボランティアガイド レンジャーなど	上級/中級/初級 各国言語対応 専門分野	学芸員 市民の会から育成
ガイド収益（単価）	10AUSドル／箇所（入場料込） AUSドル=61円（※3）	5ユーロ/人 （ドイツのテラヴィタジオパークの例：強制ではない） 1ユーロ=121円（※3）	50円／2h 手数料を支払い、残りは自己収入となる 最低保証金1,000円（雲台山ジオパーク） 1元=14円（※3）	島原半島と糸魚川は基本的に無償
ツアー	インフォメーションセンターに行く とガイドが常駐していて案内してもらえる	ツアーという形ではパッケージ化されていない。定期的かつ頻繁にイベントを開催	ジオパーク内に所要時間別のバスツアーを整備している	イベント的に実施しており、旅行会社とタイアップしての展開は今後の課題である
行政の関わり	資金補助 また、メンバーの中にボランティアで職員が入り（財務担当）、活動している	資金補助	各種許認可	資金補助 糸魚川市では企画財政課にジオパーク推進室があり、行政職員2名が担当

※1 SPC (special purpose company)：特別目的会社、特定目的会社の略称

※2 PFI (private finance initiative)：これまでの公的部門による社会資本の整備・運営に民間資本や経営ノウハウを導入し民間主体で効率化を図ろうという政策手法

※3 各外貨の両替レート：Yahoo!ファイナンス（2009年2月現在）

カナウインカ ジオパークはもとよりヨーロッパのジオパークにおいて行政が果たしている役割は非常に大きい。この点について今後、四国でジオパークを展開していく場合、行政の果たすべき役割を検討しておくことが必要である。ジオパーク活動はボトムアップであるべきとGGNのガイドラインの中でも謳われているが、日本におけるジオパークにおいても行政が支援しているのが実情であり、特に立ち上げ時期においては行政の支援が不可欠であると考えられる。